

日本インカレ 部便り

目次

1. 日本インカレ 講評

1.1 監督より

2. 日本インカレ 試合経過

3. 選手の言葉 主将の言葉

4. 試合結果

5. 自己記録更新者

6. 主務より

1. 日本インカレ 講評

1.1 監督より

監督・藤田靖浩

今回の日本インカレは男女4名がエントリー。主将の近藤が残念ながら故障で欠場となり出場は3名となりました。

最初の種目の棒高跳では三宅が、横風が強い難しいコンディションの中、5mまでを1回でクリアし11位、惜しくも入賞とはなりませんでしたが来年こそは入賞に期待がかかります。

10000mWでは直前に標準を突破した後藤が出場。2000mまでは順調に先頭集団につけていましたが、ペースアップについて行けず27位。調整期間が短い中健闘し、来年に向けて良い経験となりました。

女子800Mは高石が出場。組によっては4位までが2分一桁台となるなど予選からレベルの高い試合となりました。高石は5組に出場、終始積極的な走りを見せましたがラスト200で徐々に離され4位と予選通過はなりませんでした。

今回は入賞者を出すことは出来ませんでしたが、三宅、後藤の2名は来年もありますので、チーム全体を盛り上げてより多くの選手を送り込み、入賞者を出したいと思います。

2. 日本インカレ 試合経過

◎トラック種目

9/7(金)

16:30 男子 10000mW 決勝

男子10000mWには後藤(3年)が出場した。夕方ということもあり、暑さをほとんど感じない良好なコンディションであった。

後藤は大きな集団の真ん中の位置からスタートした。東海大、明治大の選手が集団を引っ張る中、最初の1000mを4'15で通過した。このあと、後藤は積極的に前へ出た。2000mを4'18で通過し、全体の10番手あたりにつけた。しかし、徐々に後ろから他の選手に追い上げられていった上に、集団も縦に広がり始めたため、先頭からは離れていった。4000mまでを4'18-4'20で通過し、全体の中で6番目の集団の後方につけた。その後早稲田大の選手に引っ張られ全体の中の5番目の集団に追いつき、後藤は全体の25番手から30番手にいた。4'25で5000mを通過してからは集団から離れていき、一人で歩くこととなった。7000mまでは4'39-4'40とペースを落とし、苦しい展開となった。8000mは4'52での通過となったが、レース序盤に同じ集団にいた早稲田大の選手との差を後藤は徐々に詰めていった。次の1000mは早稲田大の選手と競り合いながら4'51で通過した。ラスト1周ではペースを上げる粘りをみせ、最後の1000mは4'38で歩き45'22"65の27位でフィニッシュした。

後藤は初めての全日本インカレ出場であったが、強豪校の選手にも怯まず積極的にレースをした。これは応援に駆けつけた他の部員を勇気づける歩きであった。来年も出場のチャンスがあり、その際は好記録を期待したい。

9/8(土)

12:50 女子 800m 予選

5組3レーンに高石(4年)の出場。高石にとっては最後の日本インカレであり、ぜひともラウンドを進めてほしいところである。予選は6組2着+4で行われる。組では今年に関東インカレ優勝者である池崎(順大)の実力が抜けており、他にも関東インカレの決勝で争った戸谷(山梨学院大)など2'10前後の資格記録を持つ選手が数人いるため、着順争いは熾烈になりそうである。4組目までの結果から、タイムでの進出には2'11の中盤あたりが必要と予想される。

スタートしてしっかりとスピードに乗り、4レーンの戸谷が先行、続いて池崎・高石がほぼ横並びでブレイクする。200m地点では6人が一つの集団となる中、3番手の位置を確保する。200mの通過は30"5。コーナーで

内側と外側から一人ずつに抜かれ5番手に後退するが、ホームストレートから第1コーナーにかけてやや外側を走って位置を上げ、4番手で500mを通過する。400mの通過は63"9。550mあたりで先頭の3人からは数メートル離され、コーナーで再び差を詰めるもラスト100mでは足が止まってしまい、先頭集団のラストスパートについていくことはできず、2'13"80の4着でゴールした。プラスでの準決勝進出はならなかった。

高石にとって対校戦は残すところ京大戦のみとなった。今回は悔しい結果となったが、女子主将として女子チームを率い、チーム一丸となって優勝に向けて調子を上げて行ってほしい。また下級生は、大学から陸上を始めて日本インカレの舞台に立った高石の姿を見て、大いに感ずるところがあっただろう。それぞれ糧としてほしい。

◎フィールド種目 9/7(金)

11:00 男子棒高跳 決勝

三宅(3年)の出場。練習跳躍の最中では雨が降った時もあったが、その後は天候が回復し、概ね晴れていた。しかし、風向は変わりやすく、強い風が始終吹いている中での試合となった。

4m80から競技が開始され、三宅は4m80から挑戦する。4m80の1回目、三宅はかなり余裕のある跳躍をし、見事1回でクリアできた。そしてバーの高さは20cm上がり、5m00に挑戦する。この高さも三宅は大きな跳躍をして1回でクリアした。この時点で、次の高さの5m10に挑戦するのは15人で、3人がパスをしているということだ。5m10の1回目、身体自体は浮いているように思えるのだが、惜しくもバーは落ち、クリアできない。続く2回目、この跳躍も惜しいものではあったが、残念ながら失敗となってしまった。緊張が高まる3回目、かなり高さのある跳躍であったが、惜しくもクリアできず、5m00の記録を残し、競技終了となった。順位は11位であった。

風向が変わりやすいなど、コンディショニング的に必ずしも良いとは言えない上に、全カレという大きな試合であったが、5m00までミスなくクリアできたということはかなりの収穫であると思われる。今回自己ベスト更新までは行けなかったものの、今後の成長・活躍が大いに期待できる。

3. 選手の言葉・主将の言葉

長距離4年 近藤秀一(主将)

全日本インカレには高石、三宅、後藤の3名が出場しました。入賞者を出すことを目標としていましたが惜しくも叶いませんでした。しかし、3選手とも今できる最

大限のパフォーマンスはできたと思います。チームとしても全国トップクラスの競技を目で見て肌で感じたことでより高い目標に挑戦するための糧となったと思います。

私は左膝裏を痛めてしまい欠場することになりました。自己管理不足であったと反省しています。先の京大戦と箱根予選会ではベストパフォーマンスができるように回復と準備をしていきたいと思っています。

京大戦での勝利を目指して練習に打ち込んで参りません。これからもご支援ご声援のほどよろしくお願い致します。

中距離4年 高石涼香(女子主将) (800m)

OB・OGの皆様には日頃よりご声援のほど誠に感謝しております。

本年の日本インカレへの女子パートの出場は高石(4)のみとなりました。以後は選手の言葉という形で大会について簡単に報告させていただきます。

女子800mに出場し、予選落ちという結果でした。SBでは17位で準決勝進出は現実的だと思っていましたし、準決勝でも決勝に期待が持てるようなレースをする心づもりでしたので、今回の結果は個人としましても残念です。今大会を一年の中で最も狙うべき大会として据えていただけにあげないレースとなってしまいました。

七大戦以降はレースに向けレースペースの実践的な練習を積み、合宿中までは不調が続きましたがその疲労が抜けて以降は体のコンディションも良く、9月の頭は練習内容としても走りの感覚としても過去最高の状態に持っていくことができていました。体調管理には非常に気を遣っていたつもりではありましたが、2日前に体調が芳しくなくなり、当日は体がやや重く集中できない状態で臨むことになってしまいました。それがレースにどれほど影響したかはわかりませんが、当日はほぼ想定内のレース展開であったにもかかわらずラストで伸びきれず失速し、予選の壁を突破することはかないませんでした。

この大会にむけて多くの方の激励をいただきました。本当にありがとうございました。

女子パート一同、次は京大に向けまして、より一層練習に励んでまいります。

競歩3年 後藤潤平 (10000mW)

全カレと秋以降のロードシーズンに向けて、夏合宿ではしっかりと歩きこみ、良い練習を積むことが出来ました。合宿を終えて、疲労等から少し状態は悪くなりましたが、一週ごとに疲労も抜けスピード感も上がってきました。ただ、全カレ標準を切って少し緊張感が和らぎ、

気が抜けてしまったこともあって、あまり自分自身に集中できていませんでした。その為か、実際のレースでは、前半こそ先頭集団に絡めたものの後半は大きく減速してしまいました。レース自体は良くなかったですが、全カレに実際に出場したことによって、その空気感を味わい、この場所で勝ちたいと思えました。今後は、全カレの入賞を大きな目標として、日々突き詰めて練習に励んでいきたいと思えます。これからもご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い致します。

跳躍3年 三宅功朔 (棒高跳)

今年の日本インカレはA標準を切ってランキング13番目で臨んだ。個人選手権はランキング最下位タイ(資格記録が参加標準記録と同じ)で臨んだが、その場でできることを堅実にこなした結果4位まで順位が上がったので、今回も周りを見ずにできることをしようと思っていた。結果として入賞を目指していた。

結果は5m00で11位。8月に跳躍技術が少し狂ってしまい修正仕切れず、5m10を落としてしまったのは反省すべき点である。

しかし入賞ラインが5m20まで上がったのは想定を超えた。試合はコンディションが悪く5m10なら入賞と思われたが、インカレという場の難しさを痛感させられた。今年の私ではどんなにうまくいってもあの日のコンディションで5m20を跳ぶのは無理だったと思う。

来年は無風で5m30以上跳ぶ実力を持って臨まないと思えないと思われる。私にとって勝負の1年間になる。

4. 試合結果

第87回日本学生陸上競技対校選手権大会

男子10000m 決勝

1	レダマ キサイヤ	桜美林大	28'28"48
2	パトリック・ワンブイ	日本大	28'34"09
3	吉田 祐也	青学大	29'47"93
4	今井 崇人	立命館大	29'52"73
5	石井 優樹	関学大	29'58"29
6	横井 裕仁	帝京大	30'00"71
7	山口 和也	日体大	30'02"83
8	住吉 秀昭	国土館大	30'04"02
	近藤 秀一	東京大	DNS

男子10000mW 決勝

1	池田 向希	東洋大	40'35"34
2	川野 将虎	東洋大	40'42"50
3	古賀 友太	明治大	40'56"34
4	高橋 和生	早稲田大	41'31"67

5	菅浪 裕也	順天堂大	41'35"05
6	遠山 航平	山梨学院大	41'35"85
7	近藤 良亮	山梨学院大	41'38"86
8	村山 裕太郎	順天堂大	41'39"92
27	後藤 潤平	東京大	45'22"65

男子 棒高跳 決勝

1	竹川 倅生	法政大	5m40
2	江島 雅紀	日本大	5m30
3	石川 拓磨	中京大	5m20
3	澤 慎吾	日本大	5m20
5	石橋 和也	関学大	5m20
6	植松 倫理	筑波大	5m20
6	鈴木 康太	日本体育大	5m20
6	尾崎 駿翔	日本体育大	5m20
11	三宅 功朔	東京大	5m00

女子 800m

予選(2着+4)

3組

4	高石 涼香	東京大	2'13"80
---	-------	-----	---------

決勝

1	塩見 綾乃	立命館大	2'05"88
2	広田 有紀	秋田大	2'06"12
3	川田 朱夏	東大阪大	2'06"54
4	池崎 愛理	順天堂大	2'08"29
5	松本 奈菜子	筑波大	2'09"51
6	竹内 まり	早稲田大	2'10"30
7	今村 菜々子	福岡大	2'12"20
8	河原田 萌	京都教育大	2'16"96

5. 自己記録更新者

9/1 第50回関東理工系学生対校選手権大会

1500m	長谷川祐輝(4年)	4'10"07
10000m	佐藤悠介(4年)	33'47"90
10000m	加藤泰斗(1年)	34'08"53
10000m	鬼頭壮平(1年)	34'51"80
10000m	佐藤魁(1年)	35'16"02

6. 主務より

6.1 応援OB・OG紹介

応援OB・OG紹介

9月6～9日に等々力陸上競技場で行われました天皇賜盃第87回日本学生陸上競技対校選手権に際し、応援に駆けつけてくださいましたOB・OGの方のご氏名をご卒業年順に報告いたします。(敬称略)

昭和54年卒 中谷敬二

昭和54年卒 渡辺芳治
 平成3年卒 小野満
 平成11年卒 明石頭
 平成13年卒 新妻拓弥
 平成15年卒 橋本武
 平成23年卒 近藤堯之
 平成23年卒 園部竜也
 平成23年卒 渡邊拓也
 平成27年卒 横田絢
 平成28年卒 渥美祐次郎
 平成28年卒 小南直翔
 平成29年卒 阿部龍太郎
 平成29年卒 加藤騎貴
 平成29年卒 神田公平
 平成29年卒 西村智宏
 平成29年卒 松本大樹
 平成29年卒 箕島頌
 平成30年卒 岸康太
 平成30年卒 早川航平

お送り下さい。

部便り主任 大島知之
 (Mail: uttfbdyri2017@gmail.com)

ご多忙の中応援にお越しくございましたこと、部員一同、心より御礼申し上げます。

6.2 行事予定

今後の行事予定をお知らせいたします。

9.24(月祝)	京大戦@山城
10.13(土)	箱根駅伝予選会@立川
11.10(土)	皇居周回駅伝

6.3 連絡先

連絡先

慶弔のご連絡は下記連絡先までお願い申し上げます。

総務委員長：斎藤誠二

TEL : 03-5370-9370

Mail : Seiji_Saito@suntory.co.jp

学生主務：原島敏知

〒167-0054 東京都杉並区松庵 2-9-16

TEL : 090-8848-7525

Mail : shumu@uttf.org

学生主務補：荒木玲

Mail : uttf.shumuho@gmail.com

部便り郵送不要の方は、お手数ですが学生主務補までご連絡下さい。

この部便りは陸上運動部ホームページ内の「OBOG 向け」からもご覧になれます。

URL : <http://www.uttf.org>

学生主務 原島敏知

部便りに関するご意見、ご感想は部便り主任の大島まで